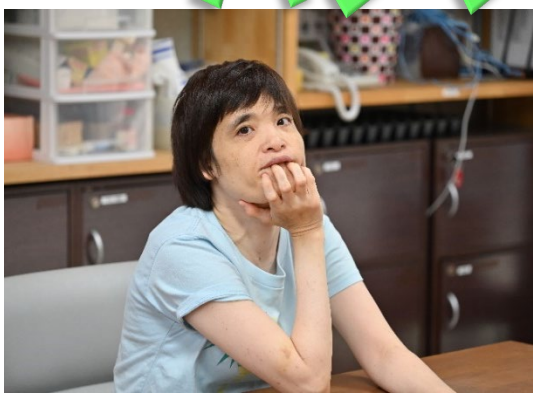
KSKR パンジーだより　No.95　第三種郵便物認可　通巻第 9236 号　2024 年 3 月 21 日発行

KSKR パンジーだより



一九九六年五月一日　第三種郵便物認可　毎月（一・二・三・四・五・六・七・八の日）発行

負の連鎖を断ち切るために

入所施設でくらしていたＣＹさんが新型コロナの影響で中断されながらも、1年半の間に11回の体験宿泊を重ね、地域でのくらしを始めることができました。最初の頃は、新しい生活への不安や食事の時間を聞くなど、大きい声を出すことが多くありました。しかし、ＣＹさんの不安そうな表情や大声の奥の気持ちを想像し、その気持ちに寄り添うにつれ、安心できる関係を作ろうとする支援者が増えました。最初の頃3人だった支援者が、今では10人に増えています。

ＣＹさんの目を見張るような変化をまぢかに見る機会を得て、「どんなに障害が重くても、すべての人が地域で自分らしくくらす権利がある」と強く思いました。そのためには、ＣＹさんの行動特性を理解しようとし、気持ちに寄り添う支援が必要です。また、国は地域で安心してくらせるための制度を充実させる責任があります。どこも引き受けてくれない2年間、精神病院を転々としていたＣＹさん。今では支援者と身振り手振りで自分の感情を伝えあい、休日は電車に乗って外出し、お店で自分の好きなものを注文して、食事ができるようになりました。

ＣＹさんは、普通のくらしを取り戻し始められて良かったと思います。反面、今、日本には12万人の知的障害のある人が入所施設でくらしています。中には、何十年もくらしている人もいます。そして、入所施設やグループホームなどでの虐待件数は、高齢者施設の7倍以上だそうです。その中でも、知的障害のある人が最も多く虐待を受けています。強度行動障害を併せ持つと言われている知的障害のある人も、元をたどれば、自分の要求を理解してもらえなかったことが、暴力につながった可能性は少なくありません。虐待を受けたストレスが原因で要求が増え、虐待の引き金になる。そんな負の連鎖を断ち切るために今、必要なことは何か？

それは、一人ひとりにあった支援の制度を作ることです。国が進めようとしている「強度行動障害のある人はグループホームへ」の方針は、見直すべきです。グループホームは、今や虐待が最も多い場所になっています。まず、これを変えること。そして一人ひとりに合わせた支援の制度を構築することが重要です。（林　淑美）

KSKR パンジーだより　No.95　第三種郵便物認可　通巻第 9236 号　2024 年 3 月 21 日発行

入所施設がなくなる日を目指して

―全ての知的障害者が地域でくらすために―

知的障害者の本当の願いとは―
みんなの望む未来への一歩を踏み出しましょう！

2023 年に制作されたドキュメンタリー映画『大空へはばたこう～自立への挑戦』に登場した5人。
彼らの思いがシンポジウムを通してさらに深まりました。どうすれば、入所施設をなくせるのか。
「シンポジウム編」には、その鍵となる問いに向き合う姿と熱いメッセージが収録されています。

2023 年 6 月、東大阪市で知的障害者、保護者、研究者、入所施設職員、地域の支援者の視点から、日本の知的障害者の現状と課題について考えたシンポジウムが開かれました。誰もが共に歩むための一歩として、必見の作品です。
当事者や家族、支援者が抱く願いについて、深く掘り下げた議論が展開されます。また、なぜ他の国に比べて「知的障害者の自立」が進まないのか。
そして、地域での自立や社会参加の実現に向けて、どのような取り組みが必要かについて語られます。
最後には、山田浩が「入所施設は、なくさなあかん。みんなでやりましょう！」と熱く呼びかけました。

定　価：3,000 円（税込）　ライブラリー価格：30,000 円（税込）　発売・販売元　：　パンジーメディア

お申し込みは、パンジーメディア
Tel:　072－968－7151／Fax:072－968－7160

PANSY MEDIA
パンジーメディア
知的障害をもつ人たちの情報発信基地

障大連「虐待防止研修」より

1 月 30 日に「障害者虐待防止～より良い支援を作り、広げるには～」（主催：障害者の自立と完全参加を目指す大阪連絡会議）が開かれ、パンジーの当事者の会「かえる会」の取り組みを報告しました。当日はリモートでの参加を合わせて約 90 名の方々が参加されました。質疑応答や意見交換では、「かえる会」の活動に対する意見や感想がたくさん寄せられ、関心の大きさがうかがえました。また「直接会場で話を聞きたくて来た」という熱い想いや、「かえる会のメンバーをうちの施設に招きたい」という声も届きました。

今回、主催者である障大連の砂川さんより、感想をいただきましたのでご紹介します。

何も考えていないのではない。怒られると思うから言えない

障大連　砂川　純子

これまで障大連では、虐待防止に向けていろんな研修を行ってきました。パンジーさんにも、当事者の想いやニュースにもなった虐待事件への取り組みなど話して頂きました。でもいつも最後に、「この支援これでいいのかな？　をあいまいにしないことが大事。でもそこが難しいよね…」と、課題が残ります。

そこで今回は、豊中市の障害者の自立を支えるサポートネットワークさんの満足度調査や、堺市のグループホーム「アピカ」さんの地道な生活づくりのこと。そしてパンジーさんには、かえる会を続けて当事者が意見を言いやすくなったかな？　当事者の発信を支援者はちゃんと受け止めてくれるかな？　など聞かせてもらいたいと思いました。当日は、当事者の梅原さん・中山さん、支援の岩村さん、介護で見舘さんがおいで下さいました。

「はじめての職員研修はうまくできなかった。職員があれだけいたらこわかった。くやしくてもう一回した」という梅原さん、「かえる会に参加するようになって、自分がこんなにも話す事ができるんやと思った。知的障害者は何も考えていないのではない。怒られると思うから言えないのです」という中山さんの言葉は、胸にひびきました。

「担当し始めたころは支援者ペースになりがちだったけど、長年携わっている職員から、当事者に任せてみんなが話をしてそうなったらそれでいい、と教えてもらった」という岩村さん、「職員面接でいつまで働くのと聞かれて、職員がやめるときの当事者のつらい想いを知った」という見舘さん。当事者に向き合う中で得られた宝物を、私も分けてもらいました。

パンジーが変わってこれたのは、かえる会を「何と言っても22年続けていること」と中山さんが言われる通りだな、と思います。「活動の場に、かえる会のようなグループを作って下さい」の言葉に、たくさんの参加者がつき動かされました。見舘さんにもサプライズで質問しましょうと言った瞬間、中山さんが手をたたいて笑顔になられて、緊張されてたんだな、と思いました。話す時間も書き込まれた原稿を見ても、たくさん準備をしてもらったんだな、と思います。本当に、ありがとうございました。

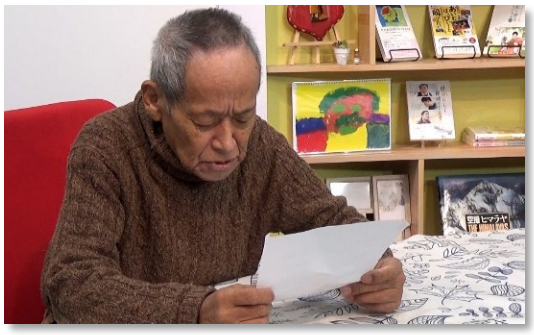
言葉に心を託して…伝えたい、この思い

パンジー「読み方教室」

昨年 11 月にスタートした「読み方教室」。きっかけは何人かの当事者から「ナレーターをしたい」という希望があったことでした。キャスターで文章を上手に読める人はいるけど、もっと言葉に心をのせて読めるようになってほしい。そうすれば、もっと自分たちの思いを伝えられるのではないか。

参加条件は「やる気があること」だけ。障害の重さはもちろん、当事者も支援者も関係ありません。募集はこちらからの声掛けはせずに「読み方教室はじめます」のポスターを貼るだけにしました。

最初に手を挙げたのは最年長の生田さんでした。「わしも昔はもうちょっと読めてんけど、最近読まれへんようになってたから、また読めるようになりたいんや」。また、「きぼうのつばさ」でキャスターを務める辰己さん、福田さん、中谷さん、普段言葉を出さない有光さんからも手が挙がりました。そして、字を読むのが苦手な山田さんも加わりました。視覚障害のある田辺さんだけは遠慮しているようなので、こちらから声をかけると、「やりたいです！」と即答。支援者と一緒に点字の原稿を準備した上での参加です。



そうして迎えた第一回の教材は林淑美の原稿。タイトルは「私には夢がある」。どんなに障害があっても、差別や偏見のない社会。誰でも普通にくらす。そんな夢をあきらめないで持ち続ける。みんなが自分の願いを自分の言葉にのせて伝えてもらおうとの思いが込められています。

第二回と第三回は絵本。第4回は谷川俊太郎の詩集と毎回テキストを変えて、様々な文章を一人ひとりが自分の感性で、時にはまじめに、時には面白おかしく、みんなで楽しみながら読んでいます。黙読と違って声を出して読む機会はなかなかありません。日頃出さない大きな声で登場人物になりきる姿にビックリさせられたり、毎回新しい発見があります。回を重ねるごとに参加者も増え、今では元キャスターの樋口さん、奥園さんも参加しています。また、寺戸さんは、みんなが読む原稿を、読みやすいように作ってくれています。

前回からは落語も取り入れました。落語って一人で何役もこなす究極の話芸ですよね。読み方教室から、キャスターやナレーターが生まれ、当事者の活躍の場が増えるといいな。そう感じながら自分も一緒に楽しく勉強させてもらっています。

歳なんか関係ない、いくつになっても勉強できる。（岩井　隆典）

ルシエルのはじまりとその背景

2023年11月15日、パンジーＶの新しい分場、“ルシエル”（フランス語で「空」の意味）が高松市に開所しました。ルシエルの開所は急なものでしたが、わずか 10 日で準備を整え、なんとか新しいメンバーを受け入れることができました。

この急な開所の背景には、理由があります。香川県の入所施設から強制的に退所させられた当事者を受け入れる必要があったからです。

実は私もこの入所施設のスタッフとして働いていたのですが、3年前に辞めています。今回、ルシエルの開所に携わり、創思苑で働くようになりました。

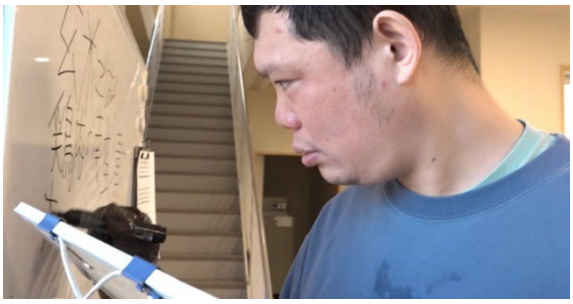
創思苑は、入所施設をなくし誰もが地域でくらすことを目指しています。福祉業界で40年近く働いてきた私ですが、創思苑の理念に深い感銘を受けました。

退所した4人の当事者は10年から20年もの間、入所施設で生活していました。これまでと違う地域になじむのかという心配をよそに、彼らはすぐに地域の生活になじみ、毎日楽しそうにルシエルに通っています。

12月にはパンジーＶのクリスマス会が開かれ、レストランに行きました。入所施設では経験できなかったことです。また 3 年間、受けることができていなかった健康診断も受診できました。心配していた家族の方々は安心していました。

ルシエルのメンバーたちは、地域での生活を始める新たな一歩を踏み出しました。彼らは入所施設ではできなかったことを経験しながら、充実した生活を送っています。

私も福祉を始めた初心に戻り、みんなと共に歩んでいきたいと思います。（佐々木　敏宏）



各場だより

体に優しいまめぱんからの始まり！

パンジー

添加物を使わない安心安全なパンを作り続けて30年のパンジーです。今、パンジーのパン屋では、来年度に向けて新しい取り組みをはじめています。数ヶ月前、地域でパンの販売活動をしている中での、ひとつの出会いから始まりました。

夢づくりプロジェクト食育部門「ほっとまるちゃん」さんからの依頼で、米粉が主成分の体に優しい無添加パン「まめぱん」の製造委託を受け、喜んで引き受けました。来年度からの販売に向けて、週に2回程、ほっとまるちゃんの方と一緒にまめぱんの製造を行っています。

私たちが大切にしている体に良い食品という考えにも合致し、当事者は新しいパンや作業に興味津々です。みんなで協力しながら、新商品の製造に取り組んでいます。

そして、4月からは当事者がパンジーで製造したまめぱんが、なんと！ コープ自然派等でも販売される予定です。ご興味のある方は、ぜひ一度食べてみてください！

また現在、私たちは独自に米粉や全粒粉を使用したパンやおやつを試作中です。来年度、当事者のティータイムでも提供できればと考えています。

国産小麦から米粉を使った新商品まで、新たな挑戦の年になりそうです！

（藤木　達也）

話を聴くこと

パンジーⅡ

パンジーメディアの「私の歴史」で、私は奥園幸聡さんの聞き取りを担当することになりました。私はパンジーで働き始めて半年ほどで、奥園さんをはじめ当事者とのかかわりは浅いですが、少しずつ話を聴くことを始めました。

しかし、話を聴く中で、その難しさに直面しました。なかなか気持ちを聞けず、表面的な内容にとどまってしまうのです。そこで、理事長と一緒に奥園さんの聞き取りを行うことになりました。理事長が奥園さんの気持ちを想像し、「つらかったね」と共感を示す姿勢に触れ、私は奥園さんに対して共感を表現していなかったことに気づきました。

奥園さんは少しずつ気持ちを話し始めました。

私は、今回の「私の歴史」に携わりながら、普段の奥園さんとは異なる一面や、幼少期からの成長過程、そして様々な思いを知ることができました。奥園さんの魅力に気づける機会でもありました。

撮影本番。奥園さんは、しっかりと原稿を読みながら、その時感じた気持ちを表現していたのが印象的でした。

実は、奥園さんとは誕生日が一緒だったり、奥園さんが働いていた場所が私の現在の住居の近くだったりと、不思議な縁を感じました。

私は今回の経験を通じて、奥園さんや他の関係者との関わりを深めていけるようになりたいと思いました。

（福井　一晃）

笑顔広がるクッキング

パンジーⅢ

金曜日、待ちに待った「クッキング」の日がやってきました。なぜって？ おやつ作りの楽しさが広がるからです。

今回のメニュータコ焼き。でも、タコはなし。代わりに、ちくわとこんにゃくを入れることに。何を入れるかもみんなで決めます。「カニ入れたらいいやん！」というボケが飛び出しました。すると、会話は一気に笑いの渦に巻き込まれ、「えーっ！！カニは高いっ！」「予算オーバーするから無理やなぁ」と言いながら、ボケた本人も大爆笑。和気あいあいとした雰囲気が広がりました。

具材が決まると、次は誰が買いに行くのか、誰がどの具材を切るのかをみんなで考えます。チームワーク抜群です。

そして、いざタコ焼き器（大阪では一家に1台ある⁉）へ。

始まると表さんと辰己さんが向かい合っています。実は2人はお付き合い中。共同作業をしている姿には、微笑ましい空気が漂っています。辰己さんの嬉しそうな表情は、こちらまで幸せな気持ちになります。

タコ焼き器に、具材が投入されます。当事者から「ひっくり返したことないからやってみたい」との声。最初はうまくいかなかったけれど、だんだん丸くなっていくタコ焼き。「できた！」「楽しい！」という嬉しそうな表情。

みんなの笑顔は私も新鮮な気持ちにさせてくれます。大成功のクッキングタイムでした！

（松本　彩奈）

楽しくて怪しい わくわく

ガイドヘルパー活動で、奈良県の金魚の名産地である『ミ・ナーラ』に行ってきました。

水槽に泳ぐ金魚の映像がどんどん変わります。写真を撮ると、異世界に迷い込んだような錯覚に陥り、怪しい感じもプラスです。

田中さんは、車いすからじっくりと金魚たちを楽しんでいました。鶴内さんは「金魚大明神」にお参りして、さらなる金運アップに期待大。

わくわくでは、これからも楽しいイベントに参加しやすいようにサポートしていきます。一緒にワクワクしましょう！　（但田　秀夫）

いっしょにくらす グループホーム

2023年6月から、清水一男さんと池田真紀さんは、一緒にグループホームでの新しい生活を始めました。それぞれが長くグループホームでくらし、違うライフスタイルを過ごしていたため、お互いを尊重しながらの生活に戸惑うこともありました。時には意見が合わず摩擦が生まれることもありました。その時は、支援者も交えながら、お互いの気持ちを理解し合い、尊重しながら話し合ってきました。

今年の1月末に池田さんがコロナになり、清水さんの過ごす場所について悩みました。清水さんに、どうしたいかを聞きました。すると「真紀が心配やから一緒におるわ」という答えが返ってきたのです。その言葉には温かな思いやりと支え合う気持ちがあふれ、共に歩んでいることを実感しました。

これからも二人は共に様々な経験を積み重ね、支え合い優しさや思いやりを持って心温まる時間を共有していってほしと思います。

（中村　保博）

書き損じハガキ、（未使用）切手を送ってください！

ご家庭や会社などで書き損じのハガキ、スタンプを押していない切手など眠っていませんか？
当事者活動部門ではこれらを集めて活動資金にあてています。ご協力お願いします。

寺野享子様

寄付を頂きました。　　カフェ葉音　さかいみ穂こ　様

パンジーでは、後援会員を募集しています。

賛助会員　１口　1ヵ月　　５００円　　本会員　　１口　1ヵ月　1,０００円
特別会員　１口　1ヵ月　3,０００円　　郵便振替番号 00950-1-300551　ｸﾘｴｲﾃｨﾌﾞﾊｳｽ「パンジー」

上映会を開きませんか？　DVD も好評発売中

知的障害を持つ人たちについて、もっと知ってもらうために、社会を変える力にしていくために
パンジーメディアは、出張上映会や自主上映会を応援しています。

『大空へはばたこう～自立への挑戦～』『大空へはばたこう～シンポジウム編』
『ヒマラヤの青い空と白い雪がくれたもの』『自分らしく地域でくらす』など多数。

シンポジウムや人権の研修会、学校の授業、事業所の研修など、パンジーメディアの映画を通して、
語り合いや交流の輪が生まれ、知的障害がある人たちへの理解が広がっていくことと思います。

費用・内容は、パンジーメディア　072-968-7151 にお問い合わせください。
メールでもOKです！　pansymedia@pansy-net.or.jp　**（DVD も好評発売中）**

『かかわりの手がかりをさぐる』

地域にくらす知的障害・自閉症の人たちのそばで

中新井澪子　著　　生活書院

［定価］1,500 円（税別）

生きにくさの中で二次的に発生する障害をもつ人たちの「問題となる行動」…。
「専門性は日常の中で」を支えに、かかわりをさぐり続けた実践から生まれた本。
知的障害のある人にかかわる人たちにはもちろん、子どもとのかかわりに悩んでいる親や、保育所で働く人たちにも、大切な気づきをもたらしてくれます。

編集人
クリエイティブハウス「パンジー」
東大阪市東鴻池町 2－4－8
TEL:072-963-8818
FAX:072-963-8825

発行人
関西障害者定期刊行物協会
大阪市天王寺区真田山町 2-2
東興ビル4階

一九九六年五月一日　第三種郵便物認可　毎月（一・二・三・四・五・六・七・八の日）発行　定価　１００円